

共有されたワークスペースの構成

——アニメーション労働現場におけるフィールドノートの分析から——

一橋大学大学院 松永伸太郎

1 目的

ルーシー・サッチマンは、航空管制室におけるワーク研究を通じて、身体的志向やその場での物理的環境を資源としてなされる多様な活動を通してその空間的秩序が成り立っていることを示し、これを共有されたワークスペースの構成 *constitution of shared workspaces* と呼んだ (Suchman 1997)。

本報告では労働現場におけるフィールドワークの中で記録したフィールドノートの分析から、棚などで物理的に区切られた空間の多い、アニメーション制作の労働現場 (X 社スタジオ) において、メンバーの活動を通してどのように職場の空間的秩序が成り立っているのかについて明らかにする。

2 方法

報告者は 2017 年 1～4 月にかけて X 社において計 37 回実施のフィールドワークを実施した。そこで得られたフィールドノートには、労働現場の物理的環境に加えて、アニメーター達が作画スタジオという組織の中でいつ、どこで、(言語的／非言語的に) 何を行っていたのかが記録されている。この記録をデータとして、空間的秩序の編成について分析する。

3 結果

食事を取るスペースなどの一部を除いて、基本的に X 社では作画机を中心とした空間が個人的なものとして構造化されている。この構造化は、棚や仕切りなどによって机の向かい側や隣の机に物理的に視界が及ばないようにになっていること、そしてアニメーター達が原則として机に正対して座り、イヤホンをつけ目線を手元付近の作画や資料に向け、関与を手元の作業に集中させていることと関わっていた。さらに、作画机が並ぶ部分の通路には、その通路沿いに自席がない者が理由なく立ち入ることはなかった。

この個人的空間に他者が入り込んでくる事例も観察されたが、その際は常にその空間に属する者に話かけてもよい十分な理由があったときにのみ介入がなされた。加えてこの十分な理由は、他社からの電話の取り次ぎ、仕上がった原画のチェック、同時期に同じ作品に関わっている者同士の相談など、時間的な幅が制約された活動において生じ、かつ仕事上の関係や趣味上の関係などの X 社のメンバーが用いる成員カテゴリーと分かちがたく結びついていた。

4 結論

X 社の共有されたワークスペースの構成は、様々な資源を用いながら、そこでメンバーが行う活動を通して成し遂げられていた。その構成の仕方は常に個人的空間に配慮したものであり、介入の仕方も時間的に制約されて可能になっていた。これはアニメーター同士が組織にいながらも干渉し合うことを避ける、X 社に特徴的な協働の仕方にもなっていた。

方法論的には、フィールドノートに記録された空間の使用と、その使用がどのような活動を構成する中でなされたのかを記述していくことによって、職場／ワークプレイスにおける秩序がいかにして編成されているのかを解明することが可能であることを示した。

文献

Suchman, L., 1997, "Centers of Coordination: A Case and Some Themes," in Resnick, L.B., Säljö, R., Pontecorvo, C., Burge, B. (eds.) *Discourse, Tools, and Reasoning: Essays on Situated Cognition*. Berlin: Springer-Verlag: 41-62.